

トラック 21-1

昔々、貧しい男がいた。彼は貧しい中で暮らしていたが、或る日思いついて、賢者達のところに行って言った：「私がここに来たのは、何か私に解決策を見つけてくれるためです。私は本当に貧しいのです」。

賢者達は言った：「あんたに見つけてあげられる解決策と言えば、結婚しなくちゃいけない」。

男は尋ねた：「私は貧しいのですが結婚しろというのですか？」。

賢者達は答えた：「そうだ、結婚すればましになるだろう」。

彼は村で娘を見つけ、結婚した。夫婦は相変わらず貧しいままで、彼は賢者達のところにもまた会いに行った。男は彼らに言った：「あなた方は、結婚したら貧しさは解消されると助言してくれましたが、貧しさは増すばかりです。他の解決策を見つけて下さいませんか？」。

賢者達は答えた：「必要な解決策はと言えば、お前と妻とで耕すことだ」。

そこで彼は妻と共に、森に行って何ヘクタールもの畑を区切った。彼らは芋、マニョック、バナナ等を植え、果実が実るまでになった。しかし、畑に行く度に男は問題があるのを見つけた。マニョックは引き抜かれ、バナナは食い荒らされていた。彼は何が起こったのだろうと思った。彼は村に降りて妻にそのことを告げたが、妻は何が起こったのか知らないと言った。もう一度彼が畑に行くと、めちゃくちゃになっているのを見つけた。彼はまた村に降りて妻に告げたが、妻は相変わらず何が起こったのか知らないと言った。彼は妻に言った：「それじゃ今日は畑に泊まって何が起きているのか確かめる」。

実は一匹の雌山羊が畑に行ってすべてを食い荒らしていたのだ。雌山羊は満腹になってから近くの川で水を飲み、眠るのだ。しかし、畑から水を飲むために川に行く度に、鱈が川から出てきて雌山羊に言った：「雌山羊よ、いつの日にか、お前は私の疫病神になるだろう」。

雌山羊は答えた：「どうして私があなたの疫病神になんかなるのですか？ 私はこの川に水を飲みに来ているだけです。」

鱈は答えた：「いずれにしてもお前は疫病神になるのだ」。

男は畑に眠りに行った。彼がじっとしていると物音が近づくのが聞こえた。彼が確かめるとそれは雌山羊だった。彼は雌山羊の後をつけて行って捕まえ、喉を裂いた。彼は臓物を持って川に行った。彼は臓物を洗い始めてそれを横に置いた。そして、彼が横に置く度に、鰐が頭を出して、下ごしらえされた臓物を取ってまた川の中に沈んだ。彼は洗った臓物が消えるのを見て訳がわからなかった。彼が臓物を洗って脇に置く度に鰐がそれを取って水の中に潜り、男はそれを見なかった。やっと、男は動きを止めて、何かが起こっていると思い、確かめようとした。その時、鰐が水から出てきて臓物を取ろうとしたので、男は刀で首を切った。鰐の切られて胴体と分かれた首が言った：「ああ、雌山羊め、お前が私の厄病神になるといったその通りになってしまった」。

男は残った臓物を洗い、畑に上って雌山羊を取り、家に戻った。彼は妻に言った：「こいつが被害の原因だった」。彼らはそれを料理して味わった。

彼らはそのうち子供をもうけたが、両親ともに教育を受けていなかったもので、彼らの子供を学校に通わせることにした。彼らが得た畑の収穫物は、子供が学業を終えるまでの学資となった。彼らは裕福になったので、彼らに助言をしてくれた賢者のところに、神の許で彼に感謝するために赴いた。